

シモキタ再開発新段階

街の未来像をめぐってここ数年、議論が繰り返されてきた東京・下北沢の駅前再開発問題が新たな段階に入った。18日に開かれた世田谷区都市計画審議会（会長＝東郷尚武元東京市政調査会常務理事）は採決の結果、区の計画案を承認した。住民団体が求めて

審議会が「区案了承」

いた計画の見直しは通らず、区の原案が具体化される見通しになった。

服飾ショップ関係者も多数参加するセイブ・ザ・下北沢や同地域の商業者500以上が参加する下北沢商業者協議会は、区の計画通りに最大幅26分の道路を新たに作れば、高層ビルの建築が可能になり、低層の小規模店はかりの独特の雰囲気は失われるとし

変わる街並に懸念残す

て計画修正を求めてきたが、審議会の東郷会長は「私自身疑問はあるが、行政の流れで仕方ない。苦渋の選択」と、採決に踏み切った。

下北沢は、シモキタの愛称で若者や多彩な分野のクリエイターに長年親しまれてきた。都心に近い立地だが、家賃が比較的安い物件が多く、音楽や演劇をはじめさまざまな文化が交じり合う特性から「ファッション業界でも、新興・個性派」を育む役割を果たしている。

このため、今回の再開発に対し「シモキタらしさが変わらないように」の声は、この街で仕事をする業界人の大勢を占めていた。計画の見直しを求める運動は下北沢ゆかりのミュージシャンや作家、学識研究者に広がっている。